

## 令和 7 年度 上尾市立東中学校 学校評価

### 1 実施時期

(1) 自己評価 第 1 回 令和 7 年 7 月 4 日

第 2 回 令和 7 年 12 月 1 日

(2) 学校関係者評価 令和 8 年 1 月 29 日

### 2 実施内容

(1) 自己評価の内容及び結果（段階評定法で 4・3・2・1 から選択）

			第 1 回 平均値	第 2 回 平均値
カリキュラム・マネジメントの確立	1-1	問題発見・課題解決能力を育成する授業を行っている	2.91	3.03
	1-2	物事を多面的・多角的に見て、判断する能力を育成する授業を行っている	3.03	3.03
	1-3	言語能力（リーディングスキル含）を育成する授業を行っている	2.94	2.97
	1-4	ICT 機器を使いこなせる能力を育成する授業を行っている	2.76	2.76
	1-5	多様な他者と協働しながら、目標に向かって努力・挑戦する力を育成している	3.06	3.12
	1-6	新たな価値を生み出す、豊かな創造性を高めようとしている	2.88	2.88
	1-7	年度当初に決定した学力向上のための取組を授業で行っている	3.32	3.26
コミュニティ・スクールの推進	2-1	地域の学校として、地域とともに育ち、生徒に地域の担い手としての自覚を持たせている	2.74	2.76
	2-2	地域の人々との学びや体験活動を通して、自己肯定感や他人を思いやる心を育ませている	2.85	2.79
自立する力の育成	3-1	学習と部活動を両立できおるような指導を行っている	3.12	3.21
	3-2	大きな声で「あいさつ」と「返事」ができるように指導している	3.03	3.09
	3-3	時間を守り、清掃活動やボランティア活動に積極的に取り組む態度を育成している	3.12	2.88
	3-4	生徒の主体的な活動を促す、意図的・計画的な生徒指導を行っている	3.06	3.00
チーム東として	4-1	自ら自己研鑽に励み、研究と修養を重ね、指導力の向上に努めている	3.24	3.15
	4-2	組織の一員として、認め合い・課題解決に向けて結集でき	3.35	3.29

		るように努めている		
安心・安全で きれいな学 習環境	５－１	施設設備の点検の徹底を図っている	３．３８	３．２６
	５－２	校内の整理整頓・環境保全に努めている	３．２６	３．１８
	５－３	ＩＣＴ教育環境整備を進めている	３．０３	２．９７
シティズン シップ教育 の推進	６－１	社会参画意識の向上する指導を行っている	２．９４	３．００
	６－２	持続可能な社会づくりの担い手の育成を行っている	２．８８	３．０３
	６－３	多様な他者と協働できる力を習得させている	３．１５	３．１２
生徒指導・教 育相談	７－１	いじめを許さない気運を醸成している	３．５０	３．３８
	７－２	共通理解、報告・相談・連絡・確認の徹底をしている	３．５９	３．４７
	７－３	「自己肯定感を育てる」教育の推進をしている	３．１８	３．１５
	７－４	養護教諭、さわやか相談員、ＳＣ、アップースマイルサポ ーターと連携している	３．５６	３．３２
	７－５	不登校生徒、不登校生徒を持つ保護者を支援している	３．０９	３．１２
進路指導	８－１	３年間を見通した計画的な進路指導・キャリア教育を推 進している	２．８５	２．８５
健全な職場 環境	９－１	事務負担を分かち合い、負担を軽減している	２．９４	２．９７
	９－２	見通しを持って職務遂行を行っている	３．０９	３．０６
	９－３	計画的な特別休暇等の取得を行っている	３．０９	２．８５
	９－４	一人ひとりが自らワークライフバランスを考える	３．０９	３．０６

(２) 保護者アンケートも実施

(３) 学校関係者評価委員会の開催（構成委員：学校運営協議委員のメンバー）

自己評価結果（保護者アンケートを参考）を学校関係者評価委員会で説明し、課題や成果について様々な角度からご意見やご感想をいただく。

### ３ 公表方法 学校だより及び学校ホームページにて公表

### ４ 成果

「自己評価」の結果から、本校の教職員は、自校の教育をおおむね肯定的に捉え、特に平均値が高かった項目は、「物事を多面的・多角的に見て、判断する能力を育成する授業を行っている」「多様な他者と協働しながら、目標に向かって努力・挑戦する力を育成している」「学習と部活動を両立できおるような指導を行っている」「大きな声で「あいさつ」と「返事」ができるように指導している」「不登校生徒、不登校生徒を持つ保護者を支援している」である。

### ５ 今後の課題と改善策

(１) カリキュラム・マネジメントの確立

問題解決力や協働する力の育成は一定の成果が見られる一方、言語能力やＩＣＴ活用能力、創造性の育成には課題がある。今後は、各教科の目標を関連付けたカリキュラム・

マネジメントを推進し、言語活動の充実やＩＣＴを活用した探究的な学習を通して、資質・能力の系統的な育成を図る。

## （２）コミュニティ・スクールの推進

今年度は「創立５０周年記念事業」を中心に、さまざまな取組を行ってきた。次年度は、生徒会とも連携しながら、学校運営協議会において東中学校区における学校と地域の連携の在り方について協議を深め、その内容を積極的に情報発信していく必要がある。また、学校教育に過度な負担が生じないように配慮しつつ、地域の力を効果的に活用していくことが求められる。

## （３）進路指導

昨年度に引き続き、進路指導の時間を十分に確保するため、進路指導およびキャリア教育に関する指導内容・年間計画の見直しが必要であると考える。「特別活動」や「総合的な学習の時間」の活動内容を整理し、３年間を見通した計画を立てることで、計画的かつ確実に進路指導を行うための時間を確保していきたい。

# 6 学校関係者評価委員の意見・感想等

## （１）意見・感想

- ・「時間を守り、清掃活動やボランティア活動に積極的に取り組む態度を育成している」の自己評価の数値が高められるように指導を強化してほしい。
- ・地域との関わりが薄れていく中で、中学生と地域との関わりを深めていく必要があると思う。
- ・「成果」と「今後の課題と改善策」が適格にまとめられている。
- ・生徒の充実した学校生活のためには、行事はとても大切である。５０周年記念行事が盛り上がっていて良かった。
- ・進路指導の充実を図り、生徒の「自己成長力」の育成を後押ししてほしい。

## （２）評価

本校の学校評価は妥当である。